**大阪市長　西尾正也殿**

　　　　　　　　　　　　釜ケ崎就労・生活保障制度実現をめざす連絡会

　　　　　　　　　　　　共同代表　山田　実・本田哲郎・大谷隆夫

　　　　　　　　　　　　第25回釜ケ崎越冬闘争実行委員会

　　　　　　　　　　　　連絡先

　　　　　　　　　　　　西成区萩之茶屋2-5-23釜ケ崎解放会館内

　　　　　　　　　　　　釜ケ崎日雇労働組合

　　　　　　　　　　　　西成区萩之茶屋3-1-10ふるさとの家気付

　　　　　　　　　　　　釜ケ崎高齢日雇労働者の仕事と生活を勝ちとる会

**特別清掃事業の継続・拡大の申し入れ**

　大阪市が大阪府と同時に実施した特別清掃事業は、940人にも及んだ登録者の実際の生活を支えるには全く遠いものであった。

　私たちが、清掃事業に就労した労働者286名の協力を得て実施したアンケート結果によれば、現実に野宿を余儀なくされている労働者は169名（59パーセント）に達している。また、その日は野宿をしていないが今でも時々するという人を含めると188名（65.7パーセント）となり、野宿を経験したことがあるものを加えると236名となる。この数字はドヤ居住者と現在野宿を余儀なくされている人との合計（233名）とほぼ見あっており、野宿をしたことがないと回答したもの（31名）はアパート・文化・借家に住んでいると回答した人（33名）とほぼ見あっている。

　特別清掃事業に就労する労働者の中に、かくも多くの野宿を余儀なくされている人々や野宿予備軍とでも言うべき人々が存在するのは、釜ケ崎全体に求人が少ない事もあるが、行政も認めるごとく高齢のためである。平均年齢は62.2歳であり、今までに年齢を理由に仕事を断られたことがあると答えたものは全体の79.7パーセント（228名）にのぼっている。

　かかる状況にあるのは、大阪府労働部の責任が大きいとはいえ、施設収容第一主義を取りながらも、現実に対応できるだけの施設を用意してこなかった大阪市民政行政の責任もおおいに問われるものであると考える。

　しかしながら、特別清掃事業は釜ケ崎の現実に対応しようとする、小さいながらも、前進する一歩であったと認められる。

　だからこそ、清掃事業に今後も続いて就労したいとするものは、他に条件のよい仕事があれば移りたいとするもの（31.8パーセント）を大きく引き離す56.3パーセントにのぼっているのであり、就労内容や場所に付いても、「今の仕事よりも労働時間や内容で多少キツクなっても就労を希望するか」の設問に対し、51.4パーセントが「単価が同じでも就労日が増えるのであれば就労する」を選択、「単価や就労日が増えるのであれば就労する」を選択したものとの合計は、88.8パーセントにものぼるという期待の高さを示しているのである。

　現実的には就労日が少なく、賃金も低いので、野宿の状態を脱するほどの効果を持たないものであるが、就労するものは「久しぶりに風呂に入れる」と喜び、350円の自弁の仕出し弁当にすら「久しぶりに人間らしいものが食べられる」と、感激している。このような人々を、清掃事業を打ち切ることによって切り捨てることがあってはならない。

　よって、次の事を申し入れる。

1. 街路清掃事業を、継続すること。

　街路清掃は釜ケ崎地区内の「美化」に効果を上げており、就労労働者にも精神的喜びをもたらしている。生活を支える効果を今は上げていないが、他に　事業を拡大、合わせることによって実効あるものとすべきであると考える。

②清掃事業を拡大すること。

　市の施設の清掃・補修などに登録者を活用すること。

③他地区の街路清掃についても登録者を活用すること。

④国に関わる施設・道路・河川の清掃・補修などに登録者を活用するよう、管理者に要望すること。

⑤市発注の公共工事などに於ける吸収策を確立すること。

⑥国に対し、釜ケ崎に対する特別交付金を要求すること。

　アンケートによれば、「バブル」がはじけ、釜ケ崎の不況が広く伝えられている状況であるにも関わらず、釜ケ崎に新しくきた人が12.9パーセントにのぼっている。「バブル」期のそれは4.9パーセントにすぎないので　るから、際立った特徴を示していると言える。釜ケ崎はこれまで、国の農業　政策や産業政策のシワよせを受けた人々の受け入れ地としての役割を担わされてきたが、現在、あるいはこれから先においては、高齢化社会への対応の　不十分さのシワよせを受けた人々の受け入れ地としての役割をも担わされることの現れといえる。国も責任を果たすべきである。

⑧臨時宿泊所閉鎖時に、再面談の要望があれば、60歳以上については必ず越年対策に準じて対応すること。

⑨以上について、当会と協議する場を設けること。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　以上

1995年1月4日\_